

氏名	三輪 亜希子
学位の種類	博士（体育スポーツ学）
学位記番号	筑鹿博甲第 13 号
学位授与年月	令和 4 年 3 月 25 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
審査研究科	人間総合科学研究科
学位論文題目	大学舞踊教育の教材「舞踊創作デザインシート」の 開発に関する実践的研究

主査	筑波大学教授	博士（工学）	高木 英樹
副査	筑波大学教授	博士（体育科学）	本間 三和子
副査	筑波大学教授		坂本 昭裕
副査	鹿屋体育大学教授	博士（体育学）	高橋 仁大
副査	岡山大学教授	博士（人文科学）	酒向 治子

論文の内容の要旨

三輪亜希子氏の博士論文は、大学舞踊教育において、学習者が質の高いダンスの創作を体験できるようにそのプロセスを支援することを目指した教材の開発に取り組み、その教材を用いた授業の教育効果を多角的に検証して、大学舞踊教育における創作能力を高めるための方略を提示することを目的とした研究である。その要旨は以下のとおりである。

まず著者は研究課題 1 として、学習者の抱える創作への課題意識の抽出及びプロの振付家が創作にどう向き合っているのか、その実践知の可視化に取り組んだ。その結果、学習者の抱える創作への課題点として、「具現化ができない」「従来の方法に捉われる」「始め方がわからない」「時間がかかる」「言語化が困難」「アイデア・発想の創出が難しい」といった見解が抽出され、学習者は創作のプロセスや始め方、アイデアの表出、言語化といった創作の要素一つ一つに対して課題意識を持っている実態を明らかにした。またプロの振付家へのインタビュー調査を基にした実践知に関する分析結果から、プロの振付家の場合、独自の訓練法による「身体性の獲得」や創作環境やフレームワークに関する「創作スタイルの形成」とともに、多様なアイデア出しによる「創作手法の実践」を相互循環的に繰り返しており、身体的プロセスに加え、自身の創作ビジョンを深化させていく認知プロセスの熟達実践知の形成に大きく関与することを明らかにした。

次に著者は研究課題 2 として、研究課題 1 の結果を踏まえ、先行研究から収集した舞踊創作の要素の中から、創作思考に関連する要素を抽出し、ダンスの創作プロセスを視覚的に支援するデザインシート試案を作成した。そのデザインシート試案の妥当性を検討するために、プロの振付家へのインタビュー調査を実施し、その分析結果に基づいてデザインシート修正案を作成した。さらに、修正されたデザインシートの有用性を検証するため、筆者が実施する芸術教育系の舞踊創作授業において、舞踊専攻の大学生 33 名を対象に実際にデザインシートを活用し、その有用性の評価を行ったものである。その結果、デザインシートを活用することによって、創作プロセスの見える化が促進され、学習者が創作思考を整理して自身の創作プロセスを客観視する効果が認められたとしている。一方、作成した教材の効果を高

めるためには、授業内でのディスカッションが重要であることも明らかにした。

さらに著者は研究課題3として、デザインシートの有用性を客観的に検証するために、著者の勤務校とは異なる3大学で実施された舞踊授業において、デザインシートを活用してもらい、その教育効果について多角的に検証を行っている。その結果、従来の授業と比較して、対話を広げる効果が高い点や理論的指導が成立しやすい点、ダンスの動きを作り出すための知的作業工程を議論する場面での活用が有効である点など、様々な効果があることを明らかにした。

以上の議論を踏まえて著者は結論として、プロの振付家の実践知を反映した「舞踊創作デザインシート」を活用することによって、創作プロセスへの理解や思考を客観的に整理するのに役立つなど、学習への好影響が認められたとしている。特に、創作の認知プロセスにおける有用性に関して、舞踊指導者からは学習者との情報共有がしやすくなったとの評価が得られ、一方学習者からも「初期のプレゼンテーション」や「思考の整理」が容易になったとの好評価が得られたとしている。また、創作プロセスに内在する創造性に関して、創作の初期段階では不確かであった作品のアイデアに対して、潜在的な思考期間に必要とされる「みとおしの力」を惹起し、「拡散的思考と収束的思考」の使い分けを促し、最終的に「手がかり」を基に認識可能な内容へ再構築する過程において、本研究で開発した「舞踊創作デザインシート」は好影響を及ぼし、潜在的な思考プロセスから解を見出すのに有効であると結論付けている。

審査の結果の要旨

(批評)

本博士論文は、これまで大学舞踊教育において、質の高いダンスを創作することを支援する有用な教材がなかったという問題を解決するために、プロの振付家が実践知として蓄積してきた思考プロセスを可視化し、そのプロセスを経験の浅い学習者であっても疑似的に追認できるような教材として、「舞踊創作デザインシート」の開発に取り組んだことは高く評価できる。またその有用性を検証するために、「対象群を置かず複数の実践の反復で検証する」という梶(2019)の研究方法論を踏襲し、実際の教育現場の実情に合わせて、客観性を担保しようとした点も本論文の特徴と言える。さらに開発された「舞踊創作デザインシート」の有用性は高いと認められ、今後の舞踊教育において活用されることが期待できる。

令和4年1月25日、学位論文審査委員会において、審査委員全員出席のもと論文について説明を求め、関連事項について質疑応答を行い、最終試験を行った。その結果、審査委員全員が合格と判定した。

よって、著者は博士(体育スポーツ学)の学位を受けるのに十分な資格を有するものと認める。